



古地図を見ると村の変革がわかるよ



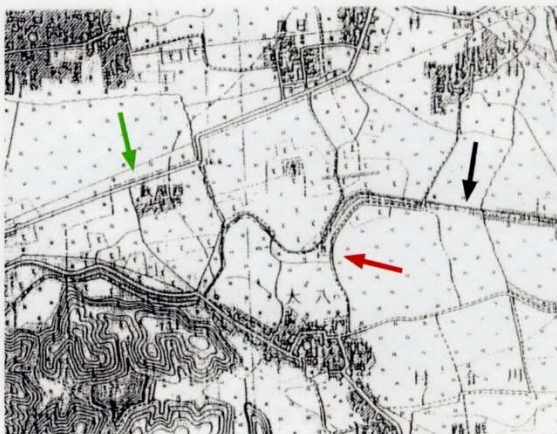
飯田 良樹

今、古地図をみながら町歩きをしているテレビ番組が増えてきた。

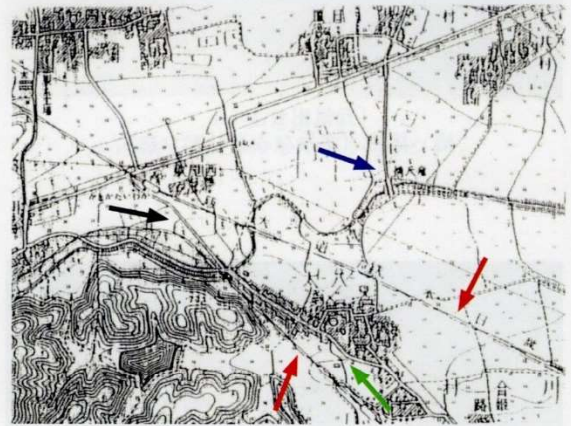
番組では江戸時代の古地図を使っているが、もっと簡単に我々の住んでいる町村の変革がわかる方法がある。県立図書館は大日本帝国陸地測量部発行の2万分の1や5万分の1の地図を明治25年の初期から所蔵し、郷土資料室で何時でも閲覧・コピーできる。



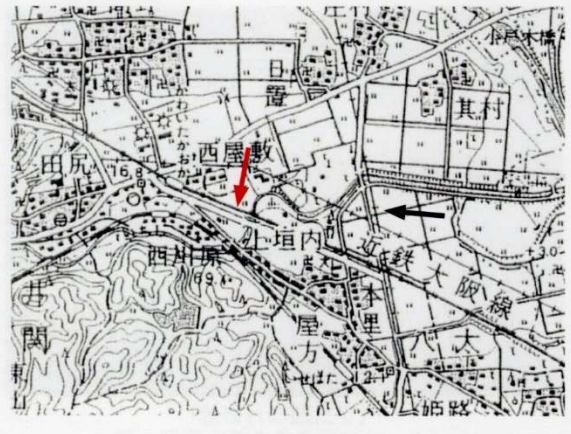
私の住んでいる明治25年の一志町八太をみると、川合村八太と記載され、赤い矢印に私の家があり、家の前を七曲りの初瀬街道が通っている。自宅前に八幡神社と班光寺と江戸時代その境内に寺子屋として開かれた小学校が記載されている。初瀬街道も黒矢印の波瀬川を渡った直ぐに川沿いを通っている。



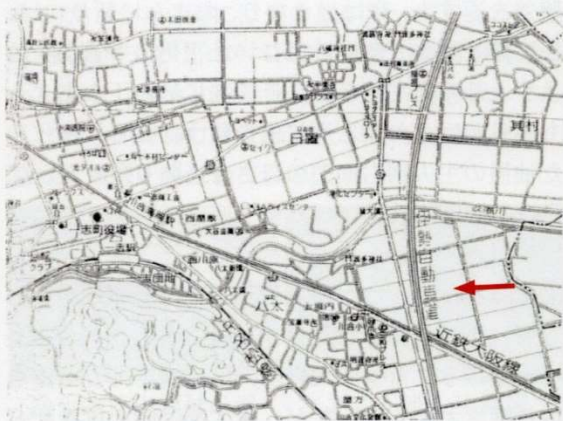
大正9年の地図。明治の地図との違いは小学校横にあった八幡神社が赤い矢印の波多神社に明治44年の合祀で消滅し、蛇行が大きいため氾濫をおこしていた波瀬川が黒い矢印の直線に改修されている。また、農道であった高岡・久居道が拡張されて緑の矢印の町道になっている。



昭和12年の地図は鉄道が走り、道路の整備がされてきたのがわかる。赤い矢印は昭和5年に施設された近畿日本鉄道大阪線と国鉄名松線。緑矢印は初瀬街道が細く曲がるので一直線の迂回路が昭和12年に出来、黒矢印の道路は近畿日本鉄道大阪線川台高岡駅への道路として拡張し初瀬街道の迂回路ができる。青矢印は波多神社横の土橋が危ないため、昭和5年にコンクリート製の龍天橋と道路が新しく作られた。



昭和56年の地図。道路の変革が見られる。赤矢印は初瀬街道が村の中を通っているために狭かったので、近畿日本鉄道大阪線沿いに昭和50年に2車線の迂回路松阪一志線が出来る。また龍天橋からの道路も狭いため黒矢印の道路が出来る。この道は久居にある自衛隊が久居から庄村を曲がって嬉野島田にある自衛隊演習場に行くために作ったと言われて、村では自衛隊道路と呼んでいる。



平成9年の地図。班光寺は小学校運動場拡張の為に平成元年に宝善寺へ移築される。昭和50年に関・久居間が、平成5年に伊勢まで全開通した伊勢自動車道路が出来、ほとんど現在とは変わらない地図となった。

少し閲覧に手続きが必要だが、三重県立博物館内にある古文書室は色んな明治の古地図を所蔵している。



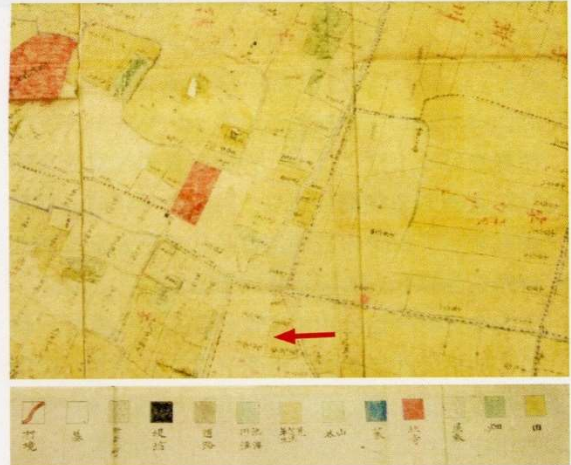
三重県立博物館 古文書室蔵

明治19年に県へ提出された村地図。村堺を確認のために接続村の戸長の署名と印が押されている。

赤い印は神社と寺であるが、住職と神主がいな

い神社仏閣は省かれている。

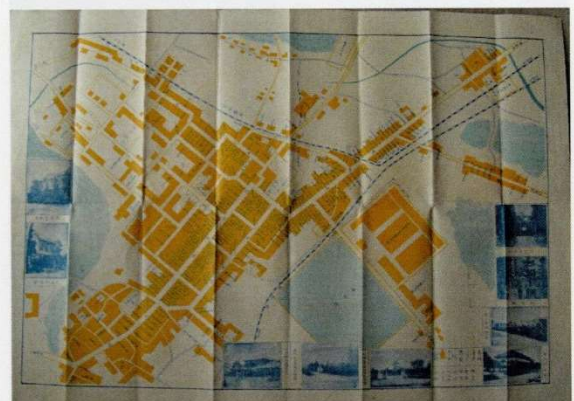
また、津地方法務局には明治中期の古地図を税務課が所蔵していて、昔の地籍図を請求すれば地図をコピーしてもらえます。



法務局所蔵の古地籍図

赤矢印は自宅。掲載色表示が記載され、赤い土地は八幡神社と法善寺、八幡神社横の班光寺は無住職のために赤色になっていない。地図は番地のみ記載で名称は無い。

もし、興味のある方で久居に興味のある方は、久居の古地図が若干手元にあるのでご覧下さい。



昭和6年久居町略図（商工家案内）

古地図を経時的に並べて、記載されている内容を比較検討して頂いたり、現在とその地図とを見比べて頂くと、その土地の移り変わりがわかり、面白いですよ。